

【別紙様式 3】

再評価実施事業調書

番号	4	事業名	事業間連携砂防等事業 (砂防事業)		路線又は箇所名等		砂防指定地 大川		
事業所管課		河川整備課		事業主体			千葉県		
事業化 年度	平成 21年度	用地着手 年度	—	工事着手年度	平成 21 年度	再評価 の理由	再評価		
				工事終了年度	令和 10 年度				
費用便益比 B/C	1.93 (1.17)	総費用 (現在価値)	10.03 億円 (3.11 億円)	総便益 (現在価値)	19.39 億円 (3.65 億円)	基準年	令和 5 年度	供用開始 年度	令和 10 年度

※上段：全体事業費 下段（ ）：残事業費

【事業概要】

(目的)

大川は、千葉県南房総市の二級河川岩井川水系大川の上流に位置する。大川流域は、丘陵性山地に源を発し、急勾配の山間地を流下し平地に流れこむ、急勾配の山地小河川である。

大川本川は、上流区域に地すべり防止区域があり、崩壊地が広く分布し、土砂流出が著しく、下流は土砂が堆積しており、河床上昇が著しいため、基準点下流については、氾濫による被害の恐れがある。

保全対象は、人家 70 戸、田畑 0.5ha、橋梁 5 橋、国道 162m、市道 594m、JR 内房線 20m である。よって、流域全体の土砂災害に対する安全性を高め、民生の安定を図ることとする。

(主な実施内容)

大川：帯工、床固工、流路工

【事業の進捗状況】(R5 年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全 体	9.42	5.29	4.13	56

【社会経済情勢等】

1968 年(昭和 43 年)以降の館山アメダス降水量データを見ると、年降水量には大きな変化は認められないが、一度の短時間降雨規模は大きくなる傾向にあり、大川においても溢水被害発生の危険性が高まる懸念される。

○投資効果

・人家戸数 70 戸 ・商業施設 7ヶ所 ・国道 127 号 162m ・市道 594m

【対応方針(案)】

大川沿川は家屋や田畑などの資産が集中しており、基準点下流は、地域の活動拠点の 1 つである市部・高崎地区の中心市街地に隣接している。また、国道 127 号があり、土石流により交通が寸断された場合は、地域防災や生活、経済に与える影響は極めて大きく、また、全体事業の費用便益(B/C)は 1.93 と事業の投資効果も見込まれることから、事業を継続することとする。

【別紙様式4】

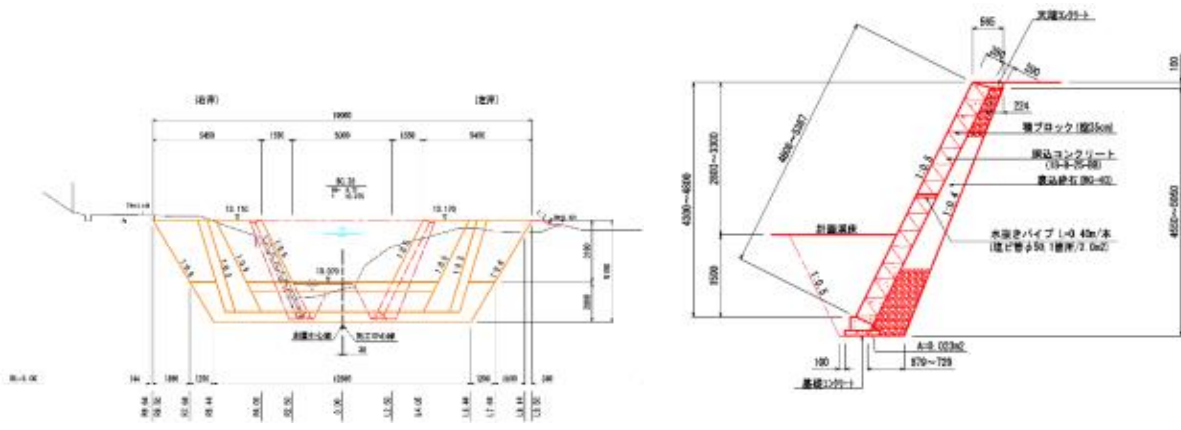
事業概要図

番号	4	事業名	事業間連携砂防等事業 (砂防事業)	路線又は箇所名等	砂防指定地 大川
----	---	-----	----------------------	----------	----------

大川 砂防施設配置図

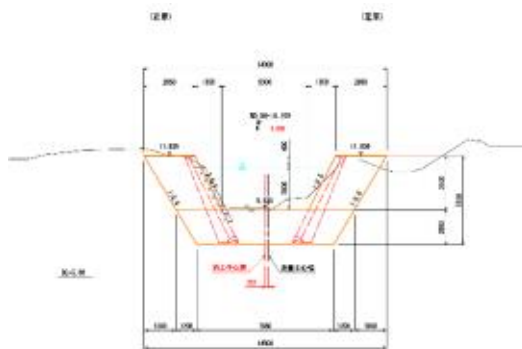


大川 対策工構造図



床固工

流路工



帯工

【別紙様式5】

再評価事業に関する調書

番号	4	事業名	事業間連携砂防等事業 (砂防事業)	路線又は箇所名等	砂防指定地 大川
事業化年度	平成 21 年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成 21 年度

【現在計画の概要】

当初評価 実施年度 (基準年)	平成 27 年度	供用開始年度	令和 8 年度	対応方針	継続
B/C	2.35	総費用	15.41 億円	総便益	36.24 億円

現在計画の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況 ( )	5 年後の推定進捗状況
事業費	5.77 億円	5.42 億円 (94%)	—
うち用地・補償費	0 億円	0 億円 (-%)	—
うち工事費	5.77 億円	5.42 億円 (94%)	—

【再評価 (R5 年度) の概要】

再評価実施年度 (基準年)	令和 5 年度	供用開始年度	令和 10 年度	対応方針	継続
B/C	1.93 [1.17]	総費用	10.03 億円 [3.11 億円]	総便益	19.39 億円 [3.65 億円]

( ※上段：全体事業、下段：[ ]：残事業 )

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況 (R5 末見込み)
事業費	9.42 億円	5.42 億円 (58%)
うち用地・補償費	0 億円	0 億円 (-%)
うち工事費等	9.42 億円	5.42 億円 (58%)

再評価後の  
経過  
及び  
処理状況

令和 5 年 1 2 月 千葉県 県土整備公共事業評価審議会 再評価  
(継続 が妥当である)